

支 部 だ よ り

日本金属学会東北支部だより

東北支部 支部長 吉見享祐*

「まてりあ」が60巻を迎えられましたことを、東北支部を代表しましてお祝い申し上げます。

東北支部は、日本金属学会本部のお膝元であるという緊張感と同時に、東北6県の風土なのでしょう、大変家族的雰囲気の中で、和気あいあいとした活動を続けております。本稿では、そのところを簡単にご紹介させていただきたいと思っております。

東北支部の主な年間行事は地区講演会と研究発表大会で、これらは共に、毎年東北6県内を開催地を変えて開催しています。

日本金属学会のホームページに残る記録も参考にいたしますと、例えば地区講演会は、2009年10月に秋田大学にて、秋田大学工学部資源学部材料工学科様と日本鉄鋼協会東北支部様との共催で開催いたしました(https://jim.or.jp/jim_web/EVENTS/branch/brch_0390.html)。その時の講演者のお一人は、準結晶で世界的に著名な故 蔡安邦先生でいらっしゃいました。8年後の2017年度には再び秋田大学で開催し、「新しい金属材料の開発と評価法」というテーマで講師お二人に講演いただきました。2018年度は弘前大学(青森)で、「イノベーションに向けた産学連携」をテーマに開催しました。2019年度はブランニュー北上(岩手)で「東北地域ものづくり企業基礎力向上セミナー ～ものづくり基礎講座～」を開催し、大学や企業から講師をお招きしました。

研究発表会については、2009年12月に岩手大学にて第8回を開催いたしました。そう考えますと、東北支部の研究発表会は2000年代に入って始まったことになり、それほど歴史が古い訳ではないことに気がきます。日本金属学会のお膝元という地域事情により、支部としての活動開始が少々遅かったのかも知れません。その後、2014年度に再び岩手大学、2015年度が弘前大学、2016年度は秋田大学、2017年度は東北大学、2019年度は仙台高専、2020年度は秋田大学というように、主に各県の国立大学や高専を会場として、東北地区の研究者、学生らの研究成果の発表と交流を続けてまいりました。近年、山形大学で開催できていないことが残念です。

2020年度はコロナ禍のため地区講演会、研究発表会共にオンライン開催となり、地区講演会は第2回「東北地域ものづくり企業基礎力向上セミナー ～ものづくり基礎講座～」でした。これらの他、(公財)本多記念会様と「本多光太郎記念講演会」を、また、日本鉄鋼協会東北支部様と湯川記念講演会を共催してまいりました。

さて、支部活動という訳ではありませんが、筆者は東北大学工学部金属系(1983年当時)に入学して以来ずっと東北大学の材料系部局に在籍しており、日本金属学会東北支部には学生時代から大変お世話になってきました。筆者が日本金属学会に入会したのは修士課程2年生であった1989年のことです。当時は、金属学会に入会するには正会員2名の推薦が必要でした。そこで筆者は、当時の指導教官の東北大学金属材料研究所 花田修治先生(2000年度および2004年度日本金属学会副会長)と和泉修先生(1993年日本金属学会賞受賞)に推薦人をお願いいたしました。花田先生には日頃からご指導いただいておりますのですぐに相談に伺うことができました。初めて和泉先生に相談に伺う際はさすがにかなり緊張し、教授室の扉をノックするのに脂汗を滲ませながら勇気を振り絞ったことを今でも鮮明に覚えております。自身初めて参加した講演大会は、1989年に北海道大学で開催された日本金属学会秋期講演大会でした。このときは旅費を支給していただき、出張扱いにいただきましたが、そのような経験はもちろん生まれて初めてで、妙に興奮いたしました。仲間達と夜行列車に乗って仙台から札幌まで移動するのも、恥ずかしながら途中まではぼ修学旅行気分、会場に着くなり突如緊張感が湧き起こって、発表前日の夜もホテルで一生懸命発表練習をしたことを今でも思い出します。とても良い経験をさせていただきました。それから30年余り、日本金属学会と東北支部に育てていただき、本当に感謝しております。今後の益々の発展に、一会員として微力ながら貢献してまいりたいと存じます。

(2021年9月10日受理)[doi:10.2320/materia.60.739]

* 東北大学大学院工学研究科；教授